

ほうれんそう に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター
【令和8年1月1日現在】

<殺菌剤>

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	べと病	うどんこ病	灰色かび病	根腐病	立枯病	萎凋病	褐斑細菌病	軟腐病	その他 病害虫							
ガスタード微粒剤				●	●	●			株腐病、ハウレンソウケナガコナダニ、一年生雑草	20~30kg/10a	は種10日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	ダゾメット	1回 (殺虫殺菌除草剤)	8F
									ハウレンソウケナガコナダニ	10kg/10a	は種10日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して浅く混和する。			
リドミル粒剤2	●									9kg/10a	は種時	1回	全面土壌混和	メタラキシル	2回以内(但し、種子への処理は1回以内、は種時は1回以内)	4
リゾレックス水和剤									苗立枯病 (リゾクトニウム)	種子重量の0.5%粉衣	は種時	1回	種子粉衣	トルクロホスメチル	1回	14
										500倍 (3L/m ²)	は種時	1回	土壌灌注			
バシタック水和剤75									苗立枯病 (リゾクトニウム)	種子重量の0.4%	は種前	1回	種子粉衣	メプロニル	2回以内(但し、種子への処理は1回以内、土壌灌注は1回以内)	7
										200倍	は種前	1回	1時間種子浸漬			
										1000倍	は種前	1回	24時間種子浸漬			
										750~1500倍 (3L/m ²)	は種時~子葉展開時	1回	土壌灌注			
タチガレン液剤					●					50~100倍 (300mL/m ²)	は種前	1回	全面散布後土壌混和	ヒドロキシイソキサゾールカリウム	1回	32
										500~1000倍 (3L/m ²)	は種時	1回	土壌灌注			
										1500~3000倍 (9L/m ²)	は種時	1回	土壌灌注			
ヨネポン水和剤	●									500倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	4回以内	散布	ノニルフェノールスルホン酸銅	4回以内 (殺虫殺菌剤)	M01

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

※「ほうれんそう」小作物群： ×非結球あぶらな科葉菜類 ○ヒユ科葉菜類

<殺菌剤> ほうれんそう

【令和8年1月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	べと病	うどんこ病	灰色かび病	根腐病	立枯病	萎凋病	褐斑細菌病	軟腐病	その他 病害虫							
レーバスフロアブル	●									2000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布	マンジプロパミド	2回以内	40
ライメイフロアブル	●									2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布	アミスルブロム	2回以内	21
ランマンフロアブル	●									2000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	3回 以内	散布	シアゾファミド	3回以内	21
アリエッティ水和剤	●							白斑病		1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ホセチル	2回以内	P07
Zボルドー	●						●	斑点細菌病、黒腐病、黒斑細菌病		500倍 (100~300L/10a)	発病前~発病初期	-	散布	塩基性硫酸銅	- <野菜類(キャベツを除く)該当>	M01
									●	500~1000倍 (100~300L/10a)	発病前~発病初期	-	散布			
ジーファイン水和剤	●									750~1000倍 (150~500L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム 無水硫酸銅	- <野菜類(なすを除く)該当>	NC M01
									●	1000倍 (150~500L/10a)	収穫前日まで	-	散布			
ハーモメイト水溶剤	●		●							800~1000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム	- <野菜類該当>	NC
									●	800倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布			
カリグリーン	●		●							800~1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素カリウム	- <野菜類(トマト、ミニトマトを除く)該当>	NC
									●	800倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布			
ピシロックフロアブル	●			●	●					1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ピカルブトラゾクス	2回以内	U17

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

ほうれんそう に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和8年1月1日現在】

<殺虫剤>

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード	
	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ザ ミ ナ ミ キ イ ロ ア	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ホ ガ ウ コ レ ナ ダ ソ ウ ケ	ハ ダ ニ 類	タ ネ バ エ								その他 病害虫
ダイアジノン粒剤5								●		6kg/10a	は種時	1回	作条土壌混和又は土壌 表面散布	ダイアジノン	2回以内(但し、は種時及びは種前の土 壌混和は合計1回以内)	1B
									ヒメクロユスリカ	6kg/10a	は種前	1回	土壌混和			
ダイアジノン水和剤34	●									2000倍 (100~300L/10a)	収穫21日前まで	2回 以内	散布	ダイアジノン	2回以内(但し、は種時及びは種前の土 壌混和は合計1回以内)	1B
ラグビーMC粒剤									ネコブセンチュウ	20kg/10a	は種前	1回	全面処理土壌混和	カズサホス	1回	1B
カルホス微粒剤F								●		6kg/10a	は種時	1回	作条処理土壌混和	イソキサチオン	1回	1B
エルサン乳剤	●					●				1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫21日前まで	1回	散布	P A P	1回	1B
				●	●					1000倍 (100~300L/10a)	収穫21日前まで	1回	散布			
アディオソ乳剤	●								ハクサイダニ	3000倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布	ペルメトリン	2回以内	3A
スミチオン乳剤	●					●				1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫21日前まで	2回 以内	散布	MEP	2回以内	1B
ダニトロンフロアブル						●				2000倍 (150~300L/10a)	収穫21日前まで	1回	散布	フェンピロキシ メート	1回	21A
マラソン乳剤	●									2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	4回 以内	散布	マラソン	4回以内	1B

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

※「ほうれんそう」小作物群： ×非結球あぶらな科葉菜類 ○ヒユ科葉菜類

<殺虫剤> ほうれんそう

【令和8年1月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード
	ア ブラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ザ ミ ナ ミ キ イ ロ ア	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ホ ウ コ ナ ソ ウ ケ	ハ ダ ニ 類	タ ネ バ エ	その他 病害虫							
ランネート45DF	●									1000倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	4回 以内	散布	メソミル	4回以内	1A
			●	●						1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	4回 以内	散布			
アグロスリン乳剤	●			●						2000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	5回 以内	散布	シペルメトリン	5回以内	3A
			●							1000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	5回 以内	散布			
パダンSG水溶剤			●						アシグロハモグリバエ、シロオビノメイガ	1500倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布	カルタップ	2回以内	(殺虫殺菌剤) I:14 F:U19
ノーモルト乳剤				●						2000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布	テフルベンズロン	2回以内	(昆虫成長制御剤) 15
アクタラ顆粒水溶剤	●								ウリハムシモドキ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布	チアメトキサム	3回以内(但し、種子への処理及びは種時の作条混和は合計1回以内、散布は2回以内)	4A
カスケード乳剤					●	●			マメハモグリバエ、シロオビノメイガ、アシグロハモグリバエ	4000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	3回 以内	散布	フルフェノクスロン	3回以内	(昆虫成長制御剤) 15
アフーム乳剤					●	●				2000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布	エマメクチン安息香酸塩	2回以内	6
アドマイヤーフロアブル	●	●							ウリハムシモドキ	4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	イミダクロプリド	3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)	4A
アドマイヤー顆粒水和剤	●									10000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	イミダクロプリド	3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)	4A
スピノエース顆粒水和剤		●							アシグロハモグリバエ、シロオビノメイガ	5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピノサド	2回以内	5

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農業を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。

※農業散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農業が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> ほうれんそう

【令和8年1月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード (IRAC)
	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ザ ミ ナ ミ キ イ ロ ア	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ホ ウ レ ン ダ ソ ウ ケ	ハ ダ ニ 類	タ ネ バ エ	その他 害 虫							
ディアナSC						●				2500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピネトラム	2回以内	5
		●			●				シロオビノメイガ、 ハクサイダニ、ハモ グリバエ類	2500~5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
プレオフロアブル					●				ハモグリバエ類 シロイチモジヨトウ	1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ピリダリル	2回以内	UN
プレバソフロアブル5					●				シロオビノメイガ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クロラントラニリ プロール	3回以内	28
スタークル粒剤/ アルバリン粒剤	●									6kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	ジノテフラン	3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回 以内、散布は2回以内)	4A
リーフガード顆粒水和剤	●	●				●			アシグロハモグリバ エ	1500倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布	チオシクラム	2回以内	14
ウララDF	●									4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フロニカミド	2回以内	29
ダントツ水溶剤	●									4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クロチアニジン	4回以内(但し、は種時の土壌混和は1回 以内、散布は3回以内)	4A
フォース粒剤						●			ネキリムシ類	9kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	テフルトリン	1回	3A
コテツベイト						●				3~6kg/10a	は種時~2葉期まで (但し、収穫14日前ま で)	1回	全面土壌散布	クロルフェナピル	1回	13
ファインセーブフロアブル		●								2000倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布	フロメトキン	2回以内	34
アニキ乳剤					●					1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	レピメクチン	3回以内	6
モベントフロアブル	●	# ●				●				2000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布	スピロテトラマト	3回以内 (殺虫殺菌剤)	23

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

#2月4日確認：対象病害虫にアザミウマ類を追加

ほうれんそう に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和8年1月1日現在】

<除草剤>

薬剤名	対象雑草	使用量・薬量 (使用希釈液量)	使用時期	使用回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の総使用回数	分類コード
ナブ乳剤	一年生休科雑草 (スメノカタビラを除く)	150~200mL/10a (100~150L/10a)	雑草生育期 (休科雑草3~5葉期) (但し、収穫7日前まで)	1回	雑草茎葉散布又は全面散布	セトキシジム	1回	1
マイゼット	一年生雑草	600~1000mL/10a (100~150L/10a)	は種前又は植付前	3回以内	雑草茎葉散布	ジクワット	3回以内	22
			畦間処理:雑草生育期 (但し、収穫14日前まで)	3回以内	雑草茎葉散布	パラコート	3回以内	22
プリグロックスL	一年生雑草	600~1000mL/10a (100~150L/10a)	は種前又は植付前	3回以内	雑草茎葉散布	ジクワット	3回以内	22
			畦間処理:雑草生育期 (但し、収穫14日前まで)	3回以内	雑草茎葉散布	パラコート	3回以内	22
バスタ液剤	一年生雑草	300~500mL/10a (100~150L/10a)	収穫7日前まで (雑草生育期耕起前・は種前又は畦間処理)	2回以内	雑草茎葉散布	グルホシネート	2回以内	10
タッチダウンiQ	一年生雑草	250~500mL/10a (25~50L/10a)	耕起又はは種7日以前(雑草生育期)	2回以内	雑草茎葉散布	グリホサートカリウム塩	3回以内	9
ラウンドアップマックスロード	一年生雑草	200~500mL/10a (通常散布50~100L/10a) (少量散布5~50L/10a)	耕起前又はは種前まで(雑草生育期)	3回以内	雑草茎葉散布	グリホサートカリウム塩	3回以内	9
ラッソー乳剤	一年生雑草	150mL/10a (100L/10a)	は種直後	1回	全面土壌散布	アラクロール	1回	15 <適用土壌: 壤土~埴土> <適用地帯: 全域>

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。